



# 指扇中だより



西区の花 アジサイ

= 自信と誇りに満ちた指中生 =

〒331-0078 さいたま市西区西大宮 3-31-1 電話 048(624)6234 FAX048(624)2479

『認め合い、助け合い、そして素晴らしい成果を』

校長

あおき ひろし  
青木 洋

新学期が始まって早1ヶ月が過ぎようとしています。1年生は中学校生活に慣れ始め、また2,3年生はそれぞれの役割を理解し学校生活や部活動等に意欲的に取り組んでいます。明日からの10連休を有意義に過ごしてほしいと思います。部活動の練習、学習への取組、読書(4月23日は「子ども読書の日」でした)等、そして日本人として、歴史的な「平成」から「令和」への新しい時代への幕開けを実感して頂きたいです。



連休明け、来月は18日(土)第73回体育祭、24日(金)中間テスト、6月1日(土)~7日(金)さいたま市学校総合体育大会等様々な行事があります。体育祭は、体育の授業の成果を発表する場であり、新しいクラスの団結力を高め「クラスの和」を作ります。市学校総合体育大会は、3年生にとっては最後の大会となります。中学校の部活動で学んだすべてを出し切り、次の目標(進学等)へ向かってほしいものです。その2つの体育的行事に向け、宮大工棟梁である西岡常一(にしおかつねかず)【1908年~1995年】氏の名言を紹介します。

木にはそれぞれ癖があり、一本一本違います。産地によって、又同じ山でも斜面によって変わります。まっすぐ伸びる木もあれば、ねじれる木もある。材質も、堅い、粘りがあると様々です。木も人間と同じ生き物です。いまの時代、何でも規格を決めて、それに合わせようとする。合わせないものは切り捨ててしまう。人間の扱いも同じだと思います。法隆寺が千年の歴史を保っているのも、みな癖木を上手に使って建築しているのです。

棟梁というものは何かといいましたら、「棟梁は木の癖を見抜いて、それを適材適所に使う」ことやね。建築は大勢の人間が寄らんとできんわな。そのためにも「木を組むには人の心を組め」というのが、まず棟梁の役割ですな。職人が50人おったら50人が私と同じ気持ちになってもらわんと建物はできません。



※『木に学べ 一法隆寺・薬師寺の美一』著者;西岡常一 より

クラスには運動の苦手な人や走るのが遅い人もいるようにみんな違いますが、体育祭では、認め合い、助け合いながら行う必要があります。市の学総大会でも、レギュラーの人だけが頑張ってもよい成果は出ません。全ての部員が、力を合わせて取り組まないといけません。一人ひとりの部員の良さが出てこそ素晴らしい成果が出ると思います。保護者の皆さん、地域の方々、指中生の活躍を楽しみに応援やお弁当作り等お願いします。

